

両沼地方稲作情報 第2号【種子予措・育苗の準備】

令和8年
3月5日



「A会津よつば 各宮農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区、袋原土地改良区
発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2113）
〃 金山普及所（電話0241-54-2801）

↑ 会津坂下農業普及所のホームページで情報を発信しておりますのでご利用ください。

◎暑さに負けない丈夫な稲づくり、健苗が第一歩

- 田植日から逆算して、浸種から始まる作業日程を立てましょう。日程は苗の種類や浸種期間の目安を参考にしてください(表1、表3、表5)。

■1か月予報(3月7日～4月6日、仙台区気象台発表)

- 平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

■種子予措のポイント

塩水選

- 出芽の均一化、苗の生育揃いを良くして、ばか苗病やもみ枯細菌病、いもち病等の種子伝染性病害の発生を防ぐため、**必ず塩水選を行い、浮いた種子を取り除いた充実した種子を使いましょう。**

- 塩水の比重、食塩等の目安量は、表2、図1のとおりです。

消毒

- 未消毒種子は、**必ず消毒を行いましょう。**
- 薬剤消毒は、薬液の温度や風乾方法等、ラベルの使用方を確認して行いましょう。(浸漬処理薬剤の例、表3)
- 塩水選から、薬剤消毒、播種までの手順は、図2のとおりです。

浸種(水浸し)

- 浸種の期間や水温等の目安は、表4のとおりです。
水温が10℃以下の場合、浸種期間を長くしても吸水が十分に行われません。**水温と芽の状態、芽の切れを確認しながら浸種を行いましょう。**

- 水槽は直射日光を避け水量を十分確保しましょう。浸種開始3日以降、1～2日ごとに水を交換して靱に酸素の供給を促しましょう(水温が高くなる場合は毎日、水交換しましょう)。
- もみ袋に種子を詰め過ぎないようにしましょう(1袋当たり乾粃で4～5kg程度)。また、もみ袋の下に簀の子(すのこ)を敷いたり、もみ袋の入れ替えを行ない酸欠を防ぎましょう。

催芽(芽だし)

- 出芽を促し出芽揃いを良くするため、催芽を行いましょう。
- 設定温度は28℃が目安です。30℃以上で、もみ枯細菌病のリスクが高まります。育苗器のサーモスタットは事前の動作確認を行いましょう。
- 播種時の芽の状態は、はと胸が目安です(図3)。芽の状態によって、催芽の期間を1～2日に調整するとともに、催芽終了後、播種まで時間がある場合は、冷水で芽止めを行い、水を切り直播日光を避けて保管しましょう。
- 露地育苗の場合は、低温により出芽の遅れや出芽不良を防ぐため、催芽を行うとともに、播種後に加温出芽を行いましょう。

表1 育苗の作業日程例 <稚苗>

作業	必要日数	作業月日
浸種	10日間	◎ 4/17(金)
催芽	2日間	↑ 4/27(月)
播種	◎	4/29(水祝)
育苗	24～25日間	
田植え	◎	5/23(土)～5/24(日)

田植え日から逆算して、浸種日を決める

表2 塩水選 水10ℓの目安量

	比重	食塩	硫安
うるち	1.13	2.1kg	2.7kg
もち	1.10	1.6kg	2.0kg

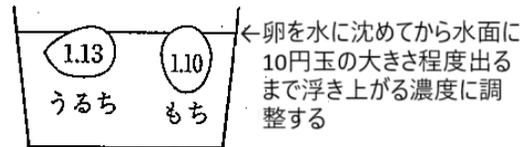


図1 卵による比重の目安

表3 種籾の薬剤消毒(浸漬処理)の例

農薬名	適用病害	希釈倍率	使用時期	使用方法
モミガードC・DF	いもち病、褐条病、 苗立枯細菌病、 苗立枯病*、 ばか苗病、 もみ枯細菌病	200倍	浸種前	24時間 種子浸漬
エコホープDJ			催芽時	

*モミガードC・DF; リゾーパス菌、フザリウム菌、トリコデルマ菌
*エコホープDJ; リゾーパス菌のみ

種籾準備 ⇒ 塩水選 ⇒ 水洗 ⇒ 水切り ⇒
浸漬消毒 ⇒ 風乾 ⇒ 浸種 ⇒ 催芽 ⇒ 播種

図2 塩水選、消毒(浸漬処理)、播種の流れ

表4 浸種の期間、水温等の目安

浸種期間	積算気温で100～120℃を(浸漬水温×日数) 【例 水温10℃～12℃であれば10日間】
ひとめぼれ、天のつぶ、五百万石、夢の香は、「芽の切れ」が遅いので、さらに2日ほど長く浸種を行う。	
浸種水温	10℃～15℃ (※10℃未満、15℃を超えると、芽が不揃いとなる)
浸種水量	種籾重量の2倍以上(例 種籾10kgで水20ℓ)

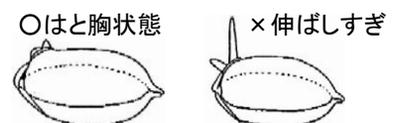


図3 はと胸状態(催芽の目安)

表5 苗の種類と葉齢、育苗日数、播種量等の目安

苗の種類	葉齢 (葉)	育苗日数(日)	播種量 (乾籾g)	草丈 (cm)	箱数 (箱/10a)
密苗	2.0~2.3	15~20	250~300	10~13	7~12
稚苗	2.2~2.5	20~25	150~200	10~13	18~22
中苗	3.0~3.9	30~35	100	13~15	30~35

■育苗準備

育苗期間

- ・苗の種類と葉齢、育苗日数等の目安は表5のとおりです。田植えに備えて育苗期間を確保するとともに、芽や根の伸び過ぎや老化苗にならないよう注意しましょう。

被覆資材

- ・被覆資材の特徴は、表6のとおりです。保温性や(光)反射の強弱によって、被覆時期や使用場所(ハウス内か露地か)等、被覆資材を使い分けましょう。
- ・ハウス内の換気とともに、被覆資材を適切に使用することで、低温による出芽の遅れや出芽不良、一方でヤケ苗を防ぎましょう。

表6 被覆資材の特徴

被覆資材	保温性	反射	備考
シルバー+不織布	◎	△	温度が高まりやすく、低温4月中旬播種で生育が安定。高温時のヤケ苗に要注意。
シルバー(表白)	○	○	表面が白色で光反射、裏面がシルバーで保温性有り。育苗ハウス・露地育苗に適する。
発砲シート	○	—	やや厚手のシートで光線透過率が高く保温性有り。育苗ハウス・露地育苗に適する。
アルミ蒸着	△	◎	他の資材より高温を抑制できる。温度が上がりにくく、低温でマット形成が劣る。

■育苗期の病害

- ・前年のR7年は、もみ枯れ細菌病や立枯細菌病の発生割合が平年より少なかったのに対して、苗立枯病、ばか苗病の発生箱割合は平年より高くなりました(図4)。育苗中に病害が発生すると対策は困難で予防防除が基本となります。種子消毒に加え、苗箱等の育苗に用いる資材の消毒も行いましょう(イチバン、ケミクロンG等の薬剤の浸漬、ジョウロ散布(詳しくは使用方法をご確認ください))。

苗立枯病

- ・ピシウム属菌によるムレ苗症状のほか、フザリウム属菌、トリコデルマ属菌による症状が確認されています。症状と防除薬剤の対策は次号に掲載予定です。

ばか苗病

- ・当普及所管内においても発生がみられます(図5)。種子消毒とともに前年に発生した場合は、伝染源となるもみ殻や米ぬか、粉じんを残さないように種子予措施設の清掃を行う等、対策の徹底をお願いします。

■その他

- ・融雪後は早めに水田の枕地等の帯水の排水を促し乾田化を図りましょう。また、漏水防止へ畦畔のねずみ穴を点検しましょう。
- ・稲わらの分解を促すため、土壌改良材や分解促進材(ワラ分解キング等)を散布して、早めに耕うんしましょう。

施肥設計

- ・各品種の施肥量(窒素分量)の目安は、表7のとおりです。
- ・側条施肥や前年に表層剥離・藻類の発生が多かった圃場では、圃場の状況を加味しながら減肥等、施肥量を調整しましょう。

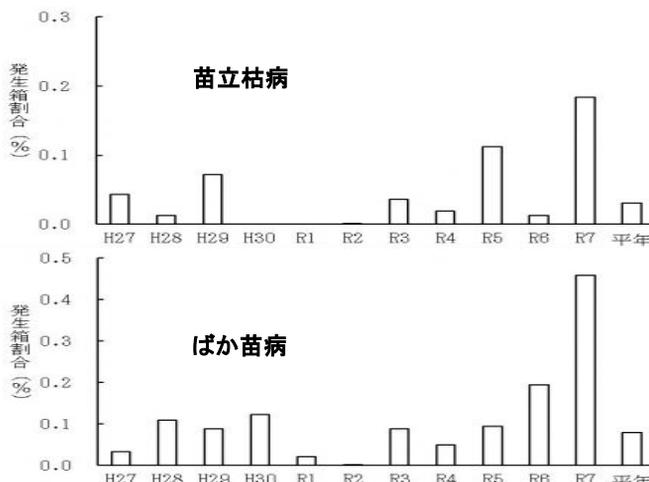


図4 育苗病害の推移(福島県病害虫防除所調べ)

注: R7は、県内全体で41施設、131,696箱調査
平年値は、H27~R6の平均

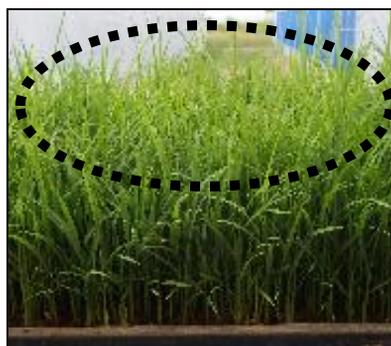


図5 ばか苗の多発(育苗箱)

苗が異常に徒長し、(ひよろ長く伸びる)淡黄緑色に黄化

表7 施肥窒素成分の目安

品種	窒素分量(kg/10a)		
	基肥	追肥	合計
コシヒカリ	4	2	6
ひとめぼれ	6	2	8
天のつづ	6~8	2	8~10
里山のつづ	6~8	2	8~10

福島県施肥基準より

人家近くでも熊の出没が報告されています。熊の活動が活発な日の出・日の入りの時間帯は極力作業を控えて、見通しの良い日中に作業を行いましょう。